

2026 年度ドイツ語圏文化学科指定校推薦入学試験（2025 年 11月22日実施）

面接試験は試験開始後、試験監督より、課題文が受験生に提示されます。2026 年度は、次の課題文が提示されました。

なお、面接試験では、以下の課題文に加え、志願書に関する質疑も行います。

ドイツ語圏文化学科指定校推薦入学試験 面接試験問題

オーバーツーリズムを考える

昨今、外国人を見かけない日はありません。日本国内に居住している人だけでなく、コロナ禍が終わってから、外国からの観光客が増加しています。これらの観光客は観光地のみならず日本経済全体にも多くの恩恵をもたらし、インバウンドとして歓迎されています。一方、京都などの有名な観光地ではあまりに多くの観光客がいるために、地元住民の生活に大きな支障をもたらしています。たとえば、公共交通機関、特にバスが観光客でごった返して、通勤通学が困難になっているそうです。観光客が出すゴミの処理の費用と手間も増大しています。また、観光客と地元住民のトラブルも増えていると言われます。これを受けて、観光客の流入を制限すべきだという論調もあります。この「オーバーツーリズム」の問題を皆さんはどう考えますか。誰にとっても良い観光の環境を構築するために、今、なにをすべきか、様々な観点から話し合ってください。

令和 8（2026）年度 学校推薦型選抜（指定校）

文学部 ドイツ語圏文化学科

試験科目：日本語による課題文

◆出題の意図

課題文で示されているテーマをめぐる賛否両論を把握する能力、および、それに対する自らの意見を導き出し、明確な筋道を立てて、論理的な日本語で説明する能力を問うている。そのさい、他者の意見に耳を傾け、積極的にコミュニケーションをとることができているかも重要なポイントである。